



名桜大学大学院教授
琉球大学名誉教授
山里 勝己

世界文運に伍せしめ

琉球大学創立 70 周年と聞くと、私は 1947 年 10 月 9 日に書かれた一通の書簡を思い出します。それは、当時の沖縄知事、のちに琉球大学初代学長に就任された志喜屋孝信先生が書かれたもので、ハワイで大学設立運動を展開していた県系人たちに宛てたものでした。その一節を引用します。

「古人曰く『一年の計は食を樹^うるにあり、十年の計は木を樹^うるにあり、百年の計は人を樹^うるにあり』と。然り国家永遠の計は人物育成にあり、いわんやこの焦土と化せし将来の沖縄をになう子女においておや。吾々の子孫をして世界文運^{ぶんうん}に伍せしめ、はたまた世界人類に貢献すべき人材を養育すべく、一日も早く所期の目的に勇往^{ゆうおう}せられん事をひとえに御願ひ申し上げ候」。

この書簡は、沖縄に創立される大学は、灰燼に帰した社会を復興する人材を教育し、世界の学問・芸術と肩を並べ、人類に貢献する人材を養成するという壮大なヴィジョンを語っています。沖縄にそのような大学を創立するために、勇気をもって前進していただきたい、と志喜屋知事は世界のウチナンチュに連帯を呼びかけたのです。

創立 70 周年、沖縄史上初の大学である琉球大学は、まさにこのような大学に成長しました。貴学のますますの発展を祈念し、お祝いのメッセージとさせていただきます。